

平成 31 年 1 月 24 日（木）

第 10 回 図書館ミニ講演会「Dr. TANAKA 降臨！」



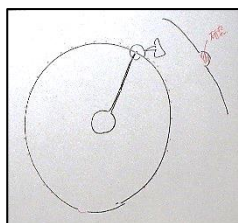
←本当の講演タイトルは、これです！

本校では、学教科の 2 年生が授業で課題研究をしています。そこで、今回は「研究とは何か」をテーマに、現役の研究者であるドクター（博士）田中先生を、マスター（修士）下川先生に「ねほりんばほりん」してもらおう、というミニ講演会を企画しました。こんな豪華な講演会、大町岳陽高校でなければ聞けない！ というわけで 20 名以上が来てくれました。

まずは、下川先生が「博士」の凄さを説明。「研究を自転車に例えると、大学四年の卒業論文は補助輪つきで自転車に乗るようなもの。大学院での修士論文は補助輪を外してコンビニまで一人で行くようなもの。ドクター（博士）を取るのは、自転車の世界大会に出て 3 回優勝するようなものです。この差がわかりますか？」（続いて田中先生がご自身の生い立ちと研究者生活について語られたのですが、3 年前の「ミニ講演会 2」でも触れていただいているので割愛します。）

田中先生は昨年、共同研究で日本生態学会から表彰されたのだそうです。その研究について話してくださいました。 **これがその賞だ！** →
ここで下川先生から質問。

「ポストク時代、国から研究費をもらってシダを研究していたそうですが、いまは生産性重視でそういう研究の意義が伝わりにくい。先生は研究の意義をどう考えているのですか？」



田中先生の答え。「意義は 2 つあります。一般の人にわかってもらうものと、研究者が内面で考えているもの。例えば、命を救ったり生活が豊かになったりという、応用研究のほうはわかってもらいやすい。でも、僕らがやっているのは基礎研究です。ただ、**研究とは、何かを「研ぎ究める」もの。全人類の知がこのくらい（小さい丸の外に大きい丸を描く）だとすると知らないことがいっぱいある。でも、一つの分野で内容を深め研ぎ究めていくと、そこがものすごい知識量になる（小さい丸から突起を出し大きい丸との交点に小さい山を描く）。**いろいろな分野でそれがおきる。その結果、全人類の知識知見というものを、少しずつひろげていくことができる（大きい丸にポコポコと山を書き足す）。僕はこれにいちばんの意義があると思っています。」

最後に、参加者からの質問に答えていただきました。（シダの何が好きなんですか？ という質問には、嬉しそうに答えてくださいました。「シンメトリーで美しい形で名前を知るだけでハッピー！」だそうです）

【アンケートに書かれた質問とその答え】 ※後日、田中先生に答えていただきました。

・来年もやって欲しいです。因みに先生はなんのシダに似ているのですか？

→答：学生時代に言われたのは「ホソバカナワラビ（細葉金蕨）です。シュツとしたやつです」

・（授業やって担任やって部活やって小さなお子さんもいて）いつ研究しているのですか？

→答：「全然できていません！ フィールドワークも一年ぐらい出られていません。」

でも、最近は琉球大学の先生たちとともに、専門的な教科書の翻訳も行っています」